



# 第43回定期委員会開催！

## 22春闘勝利！組織拡大と 要求実現に向けたたたかおう！

### 第43回地本定期委員会スローガン

#### 1. 東京地本再建大会の誓いをもとに

国鉄改革に匹敵する大変革に真正面から立ち向かい

21春闘の悔しさをバネに定期昇給完全実施をめざし、

総合労働条件向上、22春闘を全組合員の力と

多くの職場の声を結集し、たたかいをつくりだそう！

#### 委員会宣言(案)

本日、東京地本は新設なった地本会議室において、心も新たに第43回定期委員会を開催した。私たちは第38回定期大会以降、「万機公論に決す」再建大会の誓いに基づき運動を進めてきた。昨年度に引き続き座談会の開催、地本OB会の再建、地本レクの開催など少しずつ、だが確実に東京地本は歩み始めている。再建大会以降、8人目となる仲間を迎えることも出来た。こうした成果をみんなで確認しうてはならない。

第3四半期決算(3Q)は、702億円の赤字となったものの、通期での1,600億円の赤字予想は据え置かれた。新型コロナウイルスの感染拡大「第6波」により、1月の鉄道事業収入は前々年比△36.1%の大幅減となった。2期連続の赤字を覚悟せざるを得ない状況だ。コロナ禍により、社会・経営環境が激変するなか、構造改革は避けられない。

「現実機関における柔軟な働き方」に続いて「組織の再編」が提案された。構造改革の全体像が見えてきた。すでに職種を冠した職名は廃止されている。業務の融合とは、分業体制の見直しを意味する。鉄道開業150年以降の労働形態の変更である。「新しい会社をつくらう」という社長メッセージは、「JR東日本版DX」の推進宣言に他ならない。

こうしたなか、職場では「説明力」の決定的な欠如という会社組織の限界が露呈している。その結果、納得感の無いまま施策が上意下達で進められているのだ。職場には先達が顕した安全哲学が息づいている。凡事徹底とは保守的でもある。そこへ説明なき変革が押し寄せている。現場第一線の社員に「安全」と「変革」が二律背反として受け取られていないか。「安全」と「変革」は対立ではなく、両立させなくてはならない。ここに、新生東京地本の任務と課題がある。

22春闘がスタートした。社員にのみ犠牲を強いる経営姿勢、三方一両損になっていない現実には、職場では不公平感が広がっている。まずは「低額」「我慢」の職場世論を打破することが必要だ。その上で、賃金カーブ維持=定期昇給の完全実施を死守しよう。そして、物価が上昇するなか、ベア要求を堂々と掲げて生活防衛戦に決起しよう。

今、私たちは国鉄改革に匹敵する大変革に直面している。二度と道を誤る訳にはいかない。仲間の奮闘を結果させ、是々非々を基本スタンスに優れた提言を創造しよう。それを実現するためには、力を蓄える必要がある。その力とは「道義の力」である。道義とは「働く者の権利擁護」「労働条件の維持向上」という、労働組合としての普遍的価値観である。これをすべての仲間たちともう一度、分かち合うための努力をしよう。

この通かな道義の高みに掲げて、要求の前進と組織の拡大を実現しようではないか。

以上、宣言する。

2022年2月19日  
東日本旅客鉄道労働組合  
東京地方本部  
第43回定期委員会



## 22春闘勝利に向けて 職場から挑戦しよう！！